

令和4年度事業報告

定款第39条（事業報告及び決算）に基づき、
本会の令和4年度の事業報告を行うものである。

1. 会員現況
2. 組織及び業務の分担概要
3. 会議等の概要
 - (1)総会、(2)理事会、(3)顧問・評議員会、(4)各種委員会
4. 運営・広報事業の概要
5. 国際関係事業の概要
6. 催物事業の概要
7. 調査研究事業の概要
8. 表彰（功績賞、功労賞）の選考概要
9. 研究助成（研究助成部門、研究奨励部門）の選考概要

令和4年度事業報告

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の状況により、昨年度に引き続き制約のある中での活動となったが、会員のニーズ等を踏まえ、トンネル技術者にとって必要と考えられる各種の事業を実施した。

運営・広報事業では、本会の活動指針である「JTA ビジョン」を踏まえ、事業の実施等に努めた。また、今後の広報のあり方について検討するため、ウェブを活用して広報活動等に関するアンケートを実施するとともに、委員会活動成果としての図書を広く頒布した。

国際関係事業では、ITAの加盟国代表機関として関係諸国との技術交流に努めるとともに、国際会議の場等を通じて日本の技術力を世界に発信した。また、海外の文献・技術情報の収集・広報を行った。

催物事業においては、会員の資質向上を図るための施工体験発表会や講習会を、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、リモート形式を活用して開催するなどして積極的に開催した。また、開催を見合わせていた現場研修会は、9月から再開した。

調査研究事業では、技術委員会の下で、トンネルや地下空間の建設および維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに応えるよう実施した。受託業務においては、学識経験者からなる委員会において審議し、委託者の期待に応えるよう実施した。

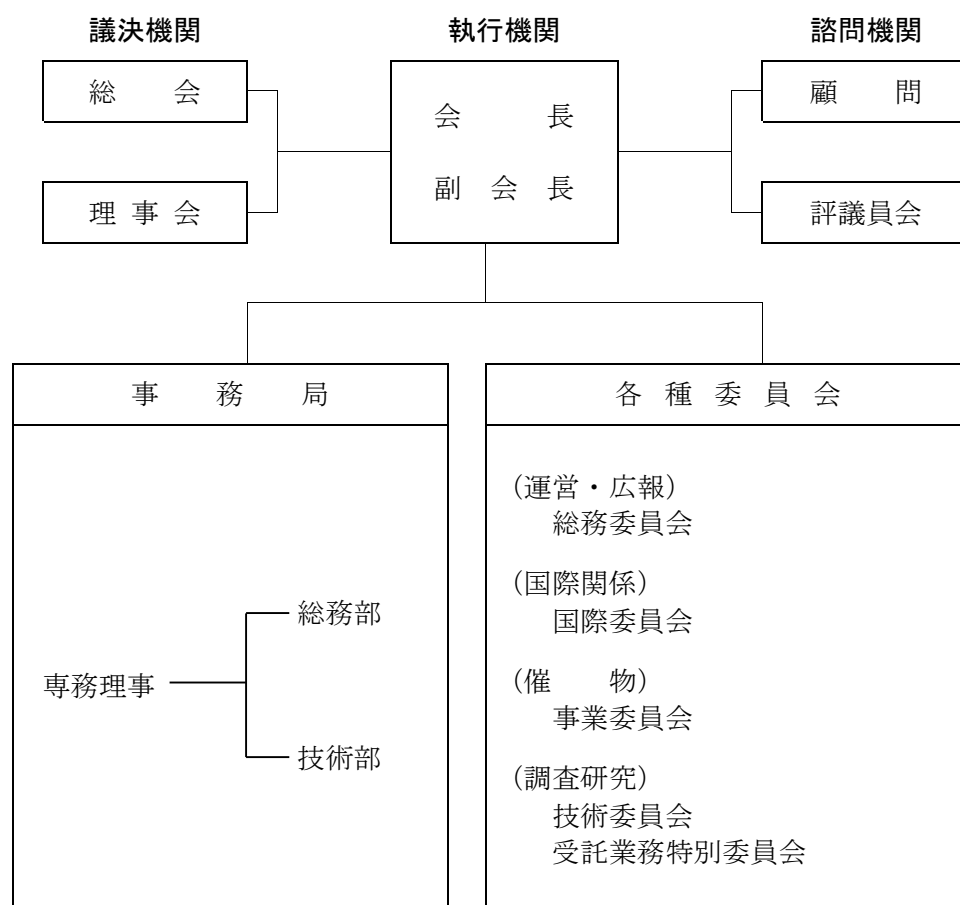
1. 会員現況

1975年（昭和50年）以降2023年（令和5年）3月までの会員現況の推移は、次のとおりである。

会員種別	1985.3 (名)	1995.3 (名)	2005.3 (名)	2015.3 (名)	2020.3 (名)	2021.3 (名)	2022.3 (名)	増 (名)	減 (名)	2023.3 (名)
正会員	2,098	1,901	2,054	1,286	1,236	1,227	1,233	106	▲ 116	1,223
団体会員	228	282	359	202	203	201	201	3	▲ 1	203
特級	3	3	3	1	1	1	1	0	0	1
特A級	—	28	24	23	23	23	23	0	0	23
A級	34	9	12	5	5	5	5	0	0	5
B級	16	20	16	10	10	10	10	0	0	10
C級	30	30	21	15	15	15	15	0	0	15
D級	145	192	283	148	149	147	147	3	▲ 1	149
個人会員	1,870	1,619	1,695	1,084	1,033	1,026	1,032	103	▲ 115	1,020
一般会員	—	—	—	866	813	805	810	48	▲ 59	799
推薦会員	—	—	—	206	206	208	207	47	▲ 46	208
特別会員	—	—	—	12	7	9	10	8	▲ 10	8
名誉会員	—	—	—	0	7	4	5	0	0	5
学生会員	—	—	—	—	—	8	5	0	▲ 2	3
賛助会員	—	—	—	169	205	202	216	40	▲ 41	215
計	2,098	1,901	2,054	1,455	1,441	1,437	1,454	146	▲ 159	1,441

摘要：1986年 特A級会員を設置、2007年 作業所単位会員を設置、2013年 作業所単位会員を廃止・賛助会員を設置
2020年 学生会員を設置

2. 組織及び業務の分担概要



(1) 議決機関

- 1) 総会を6月に開催し、協会の運営上重要な事項を、また、理事会を5回開催し、会務の執行に関する事項を審議した。なお、理事、監事の名簿は別表のとおりである(4頁参照)。

(2) 執行機関

- 1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐した。
- 2) 事務局では、専務理事が常勤し、会長及び副会長を補佐して会務を処理した。
- 3) 各種委員会については、4つの常設委員会において会務を分担した。また、設立50周年記念事業実行委員会を新たに設けることとした。受託(請負等)業務については、8つの特別委員会・検討会を設け、業務を実施した。

(3) 諮問機関

- 1) 顧問・評議員会を5月と11月に開催し、会長の諮問に応じた。なお、顧問・評議員の名簿は別表のとおりである(5頁参照)。

一般社団法人日本トンネル技術協会

理事会名簿

令和5年3月末現在

No	区分	氏名	所属	役職
1	会長	菊川 滋	(一財)橋梁調査会	理事長
2	副会長	深沢 成年	(独)鉄道・運輸機構	理事
3	副会長	押味 至一	(一社)日本建設業連合会	副会長、土木本部長
4	専務理事	時政 宏	(一社)日本トンネル技術協会	専務理事
5	理事	松崎 薫	(株)高速道路総合技術研究所	代表取締役社長 ※【本会総務委員長】
6	理事	藤井 元生	中日本高速道路(株)	参与
7	(理事)	金治 英貞	阪神高速道路(株)	執行役員
8	理事	齊藤 誠	東日本旅客鉄道(株)	執行役員建設工事部長
9	理事	毛利 哲明	電源開発(株)	執行役員土木建築部長
10	理事	坂口 淳一	東京都交通局	建設工務部長
11	理事	杉山 和久	(株)大林組	執行役員
12	理事	高田 悦久	鹿島建設(株)	専務執行役員
13	理事	湯山 和利	(株)奥村組	常務執行役員
14	理事	嘉藤 好彦	(株)熊谷組	代表取締役執行役員副社長
15	理事	宮澤 竹久	佐藤工業(株)	取締役常務執行役員
16	理事	岩田 充弘	(株)竹中土木	取締役執行役員副社長
17	理事	木村 雅哉	西松建設(株)	執行役員
18	理事	小島 伸介	日本国土開発(株)	執行役員
19	理事	山崎 政俊	(株)不動テトラ	常務執行役員
20	理事	中西 隆夫	前田建設工業(株)	代表取締役専務執行役員
1	監事	並川 賢治	首都高メンテナンス東東京(株)	代表取締役社長
2	監事	森藤 眞治	東急建設(株)	顧問
3	監事	大林 東壽	東洋建設(株)	取締役専務執行役員

顧問・評議員会名簿

令和5年3月末現在

No	区分	氏名	所属	役職
1	顧問	萩原 浩		
2	顧問	小森 博		
3	顧問	佐藤 信彦		
4	顧問	谷口 博昭	(一財)建設業技術者センター	理事長
1	評議員	福井 勝則	東京大学	大学院教授
2	評議員	足達 謙二	(独)水資源機構	ダム事業部長
3	評議員	大野 昌仁	(一社)日本建設業連合会	常務執行役
4	評議員	真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会	業務執行理事
5	評議員	永田 順宏	西日本高速道路(株)	取締役常務執行役員
6	評議員	大江 慎一	本州四国連絡高速道路(株)	取締役常務執行役員
7	評議員	堀口 知巳	(独)鉄道・運輸機構	建設企画部長
8	評議員	大石 敬司	東京地下鉄(株)	鉄道本部改良建設部長
9	評議員	猪八重 勇	東京都下水道局	計画調整部長
10	評議員	河田 孝志	清水建設(株)	土木総本部顧問
11	評議員	白川 賢志	大成建設(株)	常務執行役員
12	評議員	見喜 一朗	(株)鴻池組	専務執行役員
13	評議員	上総 周平	五洋建設(株)	執行役員副社長
14	評議員	谷口 和善	鉄建建設(株)	取締役常務執行役員
15	評議員	後藤 良平	東亜建設工業(株)	執行役員
16	評議員	中林 雅昭	戸田建設(株)	常務執行役員
17	評議員	武氣 士郎	飛鳥建設(株)	常務執行役員
18	評議員	加藤 一郎	(株)安藤・間	取締役常務執行役員
19	評議員	岡野利喜造	(株)フジタ	取締役常務執行役員
20	評議員	森 理太郎	三井住友建設(株)	常務執行役員
21	評議員	田野慎一郎	青木あすなろ建設(株)	常務執行役員
22	評議員	福武 栄一	(株)大本組	取締役執行役員
23	評議員	鈴木 明	(株)銭高組	執行役員
24	評議員	帷子 幸一	大豊建設(株)	土木本部土木部長
25	評議員	牧原 久利	若築建設(株)	取締役常務執行役員
26	評議員	田中 宏征	日本製鉄(株)	建材開発技術部長
27	評議員	井上 年史	JIMテクノロジー(株)	代表取締役副社長
28	評議員	入江 健二	メトロ開発(株)	代表取締役社長 ※【本会事業委員長】
29	評議員	西村 和夫	東京都立大学	理事 ※【本会技術委員長】
30	評議員	鈴木 徹	中日本高速道路(株)	国際・技術事業部長※【本会国際委員長】

3. 会議等の概要

(1) 令和4年度定時総会

日 時： 令和4年6月9日(木)16:00～16:40

場 所： 主婦会館プラザエフ 7階 カトレア

出席者： 出席社員 社員総員 1,232名中 880名(71%)

出席 58名、書面による議決権行使 129名(全ての議案に賛成)、
委任状 693名

出席役員 理事：菊川滋、深沢成年、松崎薫、小山宏、上総周平、
佐藤新一郎、木村雅哉、岡野利喜造、時政宏 以上9名

監事：並川賢治、後藤良平、森藤眞治 以上3名

(総会の成立)

時政宏専務理事が上記出席者を報告し、総会が成立した旨を告げるとともに、会員に対して総会の模様をインターネット配信していることを報告した。

(議長選出)

定款第15条の規定により、総会の議長を菊川滋会長にお願いし、菊川滋会長から挨拶があった。

(議事録署名者)

議長から、定款第19条第2項の規定により、総会議事録の署名人として、議長の他、出席会員の藤井元生氏、上総周平氏にお願いしたい旨を諮ったところ、全員異議がなく了承、選出された。

(議 事)

菊川議長は、議案の議事に入る旨、宣した後、

(1)第1号議案(報告事項)令和3年度事業報告

(2)第2号議案(審議事項)令和3年度事業収支決算

上記2件を一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和3年度事業報告について、会員現況、組織及び業務の分担概要、会議等の概要、各種委員会の活動状況(運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業)、表彰の選考概要、及び研究助成の選考概要の説明があった。

引き続き、定款第39条の規定に基づく定時総会の承認事項である令和3年度事業収支決算について、9種類の財務諸表等のうち正味財産増減計算書を用いて説明があった。経常収益が206,914千円、経常費用が180,923千円の決算となり、当期一般正味財産額は25,991

千円の増額で、一般正味財産残高は期首 151,717 千円から期末 177,709 千円に増額となった旨の説明があった。

引き続き、森藤眞治監事から監査結果の報告があった。

菊川議長が第 1 号議案について質問を求めたところ発言がなく、了承された。

次に、菊川議長が第 2 号議案について質問を求めたところ発言がなく、採決した結果、異議がなく、原案どおり承認された。

(3)第3号議案(報告事項)令和 4 年度事業計画

(4)第4号議案(報告事項)令和 4 年度事業収支予算

次に菊川議長は、上記 2 件について一括して上程することとし、事務局の説明を求めた。

先の理事会で承認された令和 4 年度事業計画について、運営・広報事業、国際関係事業、催物事業、調査研究事業のそれぞれの概要についての説明があった。

次に、先の理事会で承認された令和 4 年度事業収支予算について、損益ベースの会計予算書により説明があった。経常収益は前年度予算から 22,556 千円増額の 241,948 千円、経常費用は前年度予算から 28,006 千円増額の 236,479 千円とし、次年度以降の事業が円滑に実施できるよう当期一般正味財産額の増額を確保するよう計画している旨の説明があった。

菊川議長が第 3 号及び第 4 号議案について質問を求めたところ、発言がなく、了承された。

(5)第5号議案(審議事項)理事及び監事の選任

菊川議長は、上記の件について事務局の説明を求めた。

定款第 12 条第 2 号、第 21 条第 1 項の規定により、理事及び監事の選任を諮るものであり、本総会終了を以って任期満了となる理事の桑原徹郎氏、佐々木健氏、白川賢志氏、上総周平氏、佐藤新一郎氏、岡野利喜造氏、時政宏氏の 7 名、及び辞任の申し出があった理事の小山宏氏、佐藤俊哉氏、佐藤健人氏、飯田廣臣氏、宮本雅文氏の 5 名、並びに辞任の申し出のあった監事の後藤良平氏に対し、先の理事会で推薦された理事 13 名及び監事 1 名の候補者の紹介があった。

菊川議長が第 5 号議案について質問を求めたところ発言がなく、推薦された候補者を一名ずつ諮った結果、それぞれ異議がなく、下記のとおり選任が承認された。

新任の理事：藤井元生氏、齊藤誠氏、毛利哲明氏、坂口淳一氏、杉山和久氏、

高田悦久氏、湯山和利氏、嘉藤好彦氏、宮澤竹久氏、岩田充弘氏、

小島伸介氏、中西隆夫氏

再任の理事：時政宏氏

新任の監事:大林東壽氏

(その他)

事務局から令和4年度事業を実施するにあたり、先の理事会で承認された常設委員会の委員長の紹介があった。総務委員長は理事の松崎薫氏、国際委員長は評議員の鈴木徹氏、事業委員長は評議員の入江健二氏、技術委員長は評議員の西村和夫氏であり、全て留任である。

また、菊川会長から、令和4年度功績賞1名及び功労賞1名、並びに令和3年度施工体験発表会の最優秀賞2名を表彰した。

(閉会)

以上をもって本日の議事が終了したので、菊川議長は閉会を宣した。

(2) 理事会

令和4年度第1回 理事会

令和4年5月17日(火)開催 理事14名、監事3名 計17名出席

- ①令和4年度理事、監事、評議員
- ②特別会員の推薦
- ③令和4年度定時総会議案
- ④常設委員会委員長の選任

令和4年度第2回 理事会

令和4年6月9日(木)開催 理事10名、監事2名 その他1名 計13名出席

報告事項のみ

令和4年度第3回 理事会

令和4年6月9日(火)開催 理事13名、監事3名 計16名出席

- ①専務理事の選定

専務理事:時政 宏

令和4年度第4回 理事会

令和4年11月10日(木)開催 理事16名、監事2名 計18名出席

①理事・評議員の交替

理事辞任: 関本 宏 理事(候補者)承認: 金治英貞

評議員辞任: 松田 均 評議員選任: 永田 順宏

評議員辞任: 桑原 徹郎 評議員選任: 大江 慎一

評議員辞任: 伊勢田 敏 評議員選任: 大野 昌仁

②令和 5 年度定時総会開催日の選定

③JTA 表彰の募集開始

④JTA 規程類の改定

⑤特別会員の推薦

⑥「設立 50 周年記念事業実行委員会」の設置、及び委員長の選任

令和 4 年度第 5 回 理事会

令和 5 年 3 月 17 日(金)開催 理事 14 名、監事 3 名、その他 2 名 計 19 名出席

①JTA 功績賞、功労賞(令和 5 年度表彰)の受賞者の決定

②令和 5 年度理事、監事、評議員の構成

③令和 5 年度定時総会議案要綱

④推薦会員の推薦手続きに関する申合せ

(3) 顧問・評議員会

令和 4 年度第 1 回顧問・評議員会 令和 4 年 5 月 17 日(火)開催

評議員 20 名、その他 2 名 計 22 名出席

①令和 4 年度定時総会議案

令和 4 年度第 2 回顧問・評議員会 令和 4 年 11 月 10 日(木)開催

顧問 1 名、評議員 21 名、その他 2 名 計 24 名出席

①令和 4 年度事業活動及び上半期収支現況

②研究助成(令和 5 年交付)の募集

③令和 5 年度 JTA 表彰の募集

(4) 各種委員会（令和4年度開催状況）

委員会名	構成人員 (人)	開催回数 (回)	出席人数 (人)	委員会名	構成人員 (人)	開催回数 (回)	出席人数 (人)
1 総務委員会	50	21	224	5 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会	168	7	218
委員会	15	3	30	委員会	50	1	49
企画運営幹事会	9	2	15	幹事会	35	3	83
広報小委員会	7	2	22	定例検討会	9	0	-
会誌 WG	14	12	157	機械化施工小委員会	34	2	65
ホームページ WG	5	2	-	野田追トンネル(北)工区崩落事故特別技術委員会	20	2	54
2 国際委員会	104	28	290	6 中央アルプストンネル施工技術委員会	55	3	148
委員会	17	2	31	委員会	28	1	57
ITA小委員会	19	5	111	シールド小委員会	12	1	37
技術統括 WG	17	9	51	ワーキング	15	1	54
海外情報小委員会	7	0	0	7 効率的点検特別委員会	29	9	141
文献 WG	22	0	0	8 盤ぶくれ対策特別委員会	41	7	202
ニュース WG	9	12	97	9 改築設計施工技術特別委員会	30	9	211
対外広報 WG	12	0	-	10 矢上川地下調整池施工技術検討会	5	2	35
3 事業委員会	31	10	160	11 西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会	6	1	29
委員会	19	5	98	12 相模鉄道本線(鶴ヶ峰付近)連続立体交差事業トンネル施工検討委員会	7	2	64
50周年記念事業準備会	12	5	62	合計	689	122	2,070
4 技術委員会	171	23	348				
委員会	16	1	17				
共通技術小委員会	15	0	0				
資機材検索リスト運営 WG	6	0	0				
山岳工法小委員会	21	1	19				
支保 WG	27	5	107				
地山評価 WG	17	4	63				
防・排水工 WG	13	6	81				
都市トンネル小委員会	19	0	0				
安全環境小委員会	20	0	0				
保守管理小委員会	16	4	63				

(注)リモート会議、メール審議を含む。

(委員会数と構成員延べ人数)

区分	委員会	小委員会 幹事会	WG等	計	延べ 人数
常設	4	10	10	24	356
特別	8	4	2	12	333
計	12	14	12	36	689

令和4年度各種委員会名簿

(注) ◎幹事長兼任 ○幹事兼任 ()前任者

1. 総務委員会

委員長	松崎 薫
副委員長	高田 悦久
委員	見坂 茂範
委員	森 信哉
委員	堀口 知巳
委員	並川 賢治
委員	齊藤 誠
委員	大石 敬司
委員	坂口 淳一
委員	杉山 和久
委員	嘉藤 好彦
委員	白川 賢志
委員	河田 孝志
委員	岩田 充弘
委員	谷口 和善

1.1 企画運営幹事会

幹事長	堀口 知巳
副幹事長	山岸 隆史
幹事	河村 和信
幹事	大津 敏郎
幹事	小泉 秀之
幹事	(本田 諭)
幹事	伊藤 聡
幹事	友野 雄士
幹事	平井 卓
幹事	内藤 将史

1.2 広報小委員会

委員長	吉村 正
委員	中野 清人
委員	山田 隆昭
委員	野城 一栄
委員	見郷 浩二
委員	河越 勝
委員	須藤 敏明

1.2.1 会誌WG

主査	山田 隆昭
幹事	野坂 周子
幹事	堀川 淳
幹事	中野 清人
幹事	村上 哲哉
幹事	谷口 信博
幹事	山岸 隆史
幹事	垣見 康介
幹事	友野 雄士
幹事	(吉富 幸雄)
幹事	平井 卓
幹事	久多羅木吉治
幹事	松原 利之
幹事	森 正彦
協力者	山本 育徳

1.2.2 ホームページWG

主査	須藤 敏明
幹事	伊藤 哲
幹事	青柳 隆浩
幹事	安藤 拓
幹事	平井 卓

2. 国際委員会

委員長	鈴木 徹
委員	垣下 禎裕
委員	福井 勝則
委員	砂金 伸治
委員	日下 敦
委員	清水 健志
委員	村田 重雄
委員	白鳥 明
委員	中野 清人
委員	木梨 秀雄
委員	青柳 隆浩
委員	垣見 康介
委員	大塚 勇

委員	安田 亨
委員	出本 剛史
顧問	石田 積
顧問	福本 勝司

2.1 I T A小委員会

委員長	砂金 伸治
委員	杉本 光隆
委員	岸田 潔
委員	河田 皓介
委員	日下 敦
委員	吉川 直孝
委員	望月 一磨
委員	山崎 哲也
委員	真下 英人
委員	西森 昭博
委員	(山下 健司)
委員	北村 義宜
委員	大森 禎敏
委員	小野 知義
委員	淡路 動太
委員	大塚 勇
委員	富田 哲平
委員	(満尾 淳)
委員	千葉 俊也
委員	(西尾 陽平)
委員	能登 和幸
委員	保利 彰宏
委員	小松原 涉

2.1.1 技術統括 WG

主査	砂金 伸治
幹事	佐々木 亨
幹事	内藤 貴裕
幹事	遠藤啓一郎
幹事	新宮 康之
幹事	辻川 泰人
幹事	小出 孝明

幹事 西村 友宏
 幹事 長田 翔平
 幹事 土田 隆史
 幹事 アド・ザ・アズマン
 幹事 秋山 崇裕
 幹事 藤井 貴裕
 幹事 江口 康則
 幹事 山岡 一雅
 幹事 王 偉沢
 幹事 松山 彰宏

2.2 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則
 委員 清水 健志
 委員 日下 敦
 委員 堀口 陽子
 委員 橋口 弘明
 委員 秋好 賢治
 委員 横尾 敦

2.2.1 海外文献WG

主査 福井 勝則
 幹事 日下 敦
 幹事 萩原 秀樹
 幹事 石原 陽介
 委員 橋口 弘明
 幹事 堀口 陽子
 幹事 岡 滋晃
 幹事 仲山 貴司
 幹事 山下 健司
 幹事 今泉 和俊
 幹事 藤原 浩一
 幹事 尾畑 洋
 幹事 一ノ宮俊明
 幹事 瀬谷 正巳
 幹事 谷 卓也
 幹事 畑生 浩司
 幹事 満尾 淳
 幹事 中山 卓人
 幹事 米田 新
 幹事 野間 達也

幹事 久慈 雅栄

2.2.2 ニュースWG

主査 清水 健志
 幹事 志田 潤平
 幹事 広川 卓也
 幹事 天童 涼太
 幹事 福本 昌孝
 幹事 (中田 祐輔)
 幹事 内藤 雅人
 幹事 篠原 慶二
 幹事 山下 高俊
 幹事 笹田 俊之

2.2.3 対外広報WG

主査 清水 健志
 幹事 竹居 雅彦
 幹事 鈴木 遼
 幹事 日下 敦
 幹事 佐々木翔太
 幹事 菅原 千尋
 幹事 内海 和仁
 幹事 中島 純也
 幹事 秋好 賢治
 幹事 池田 廉
 幹事 尾畑 洋
 幹事 山田 宣彦

3. 事業委員会

委員長 入江 健二
 委員 野坂 周子
 委員 佐原 圭介
 委員 中野 清人
 委員 嶋田 司
 委員 長野 克哉
 委員 長尾 和明
 委員 河邊 信之
 委員 西浦 秀明
 委員 岡村 正典
 委員 山岸 隆史
 委員 河越 勝

委員 垣見 康介
 委員 友野 雄士
 委員 須志田藤雄
 委員 久多羅木吉治
 委員 戸田 一生
 委員 築地 功
 委員 安田 茂人

4. 技術委員会

委員長 西村 和夫
 委員 杉本 光隆
 委員 日下 敦
 委員 都築 保勇
 委員 佐原 圭介
 委員 中野 清人
 委員 (八木 弘)
 委員 齊藤 誠
 委員 (小山 宏)
 委員 中田 隆一
 委員 長尾 和明
 委員 木梨 秀雄
 委員 中村 誠喜
 委員 青柳 隆浩
 委員 手塚 仁
 委員 安藤 拓
 委員 友野 雄士
 委員 内藤 将史

4.1 共通技術小委員会

委員長 都築 保勇
 委員 久富 浩二
 委員 日下 敦
 委員 中野 清人
 委員 水谷 哲也
 委員 一寸木朋也
 委員 竹村 茂
 委員 長尾 和明
 委員 吉本 正浩
 委員 河邊 信之
 委員 垣見 康介
 委員 築地 功

委員 大谷 達彦
委員 北澤 剛
幹事 高氏 昇

4.1.1 資機材検索リスト運営WG

主査 水谷 哲也
副主査 中田 隆一
委員 越田 健
委員 鈴木 正憲
委員 鈴木 康之
委員 早川 文也
委員 (篠原 慶二)

4.2 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介
特別委員 上野 光
特別委員 中野 清人
委員 日下 敦
委員 山崎 哲也
委員 水野光一朗
委員 粳田 茂樹
委員 (森岡 宏之)
委員 野城 一栄
委員 河邊 信之
委員 木梨 秀雄
委員 徳永 満善
委員 青柳 隆浩
委員 杉本 憲一
委員 吉野 隆之
委員 石井 三郎
委員 友野 雄士
委員 築地 功
委員 大谷 達彦
委員 末松 幸人
委員 水谷 和彦
委員 岡田 隆一

4.2.1 支保WG

主査 佐原 圭介
委員 菊地 浩貴

委員 藤本 崇人
委員 (上谷 明生)
委員 小澤 啓明
委員 稲葉 秀雄
委員 倉田 桂政
委員 (徳永 満善)
委員 西村 友宏
委員 河村 巧
委員 村上 和哉
委員 大畑 雅義
委員 富澤 直樹
委員 大森 禎敏
委員 吉野 隆之
委員 石井 三郎
委員 金子 哲也
委員 川島 義和
委員 三浦 雅也
委員 岩城 信也
委員 今村 新吾
委員 熊谷 幸樹
委員 鈴木 健
委員 山仲 徹
委員 野間 達也
委員 水谷 和彦
委員 中込 正貴
委員 國村 省吾
委員 五十嵐 数馬

4.2.2 地山評価WG

主査 上野 光
顧問 木谷日出男
委員 小林 大助
委員 西金佑一郎
委員 田中 姿郎
委員 奥澤 康一
委員 栗原 啓丞
委員 片山 政弘
委員 淡路 動太
委員 小山 俊滉
委員 山下 雅之
委員 永井 誠二

委員 小熊 登
委員 松長 剛
幹事 中谷 匡志
幹事 石濱 茂崇
幹事 高馬 崇

4.2.3 防・排水工WG

主査 中野 清人
委員 (巽 義知)
委員 上野 光
委員 辰巳 順一
委員 斎藤 有佐
委員 手塚 康成
委員 上岡 真也
委員 金子 哲也
委員 辻川 泰人
委員 塚本 祐司
委員 増田 祐一
委員 四谷 敦
幹事 沖原 穂高

4.3 都市トンネル小委員会

委員長 長尾 和明
委員 佐原 圭介
委員 一寸木朋也
委員 小泉 秀之
委員 (本田 諭)
委員 林田 岳士
委員 大塚 信一
委員 岡 滋晃
委員 松原 健太
委員 福居 雅也
委員 中川 雅由
委員 河越 勝
委員 赤津 基博
委員 井櫻 潤示
委員 高村勝之進
委員 久多羅木吉治
委員 島村 健司
委員 森 芳樹
委員 片岡希誉司

委員 五十嵐英史

4.4 安全環境小委員会

委員長 中野 清人
委員 久富 浩二
委員 森本 智
委員 福井 令以
委員 (佐藤 誠)
委員 河村 和信
委員○ 吉川 直孝
委員○ 土屋 良直
委員○ 小林 大助
委員 嶋田 司
委員 中島 陽
委員 嶋本 敬介
委員○ 尾畑 洋
委員○ 吉野 隆之
委員○ 三原 泰司
委員○ 浅野健一郎
委員○ 岡山 孝
委員○ 中原 法久
委員○ 田辺 昭博
委員○ 大野 義範
委員○ (三上 浩)
委員○ 園田 広樹

4.5 保守管理小委員会

委員長 齊藤 誠
委員長 (小山 宏)
幹事長 志野 達也
委員 久富 浩二
委員 小泉 悠
委員 大津 敏郎
委員 永井 政伸
委員 野本 一美
委員 玉松潤一郎
委員 竹村 茂
委員 稲田 聡
委員 粳田 茂樹
委員 (森岡 宏之)
委員 野城 一栄

委員 永田 常雄
委員 北川 真也
委員 川端 康夫
幹事 藤田 健史

5. 北海道新幹線、新函館北 斗・札幌間トンネル施工技術委 員会

委員長 三上 隆
副委員長 小山 幸則
委員 大島 洋志
委員 朝倉 俊弘
委員 東畑 郁生
委員 川村 信人
委員 五十嵐敏文
委員 藤井 義明
委員 岸田 潔
委員 太田 岳洋
委員 倉橋 稔幸
委員 大津 直
委員 北川 修三
委員 小西 真治
委員 長谷川 淳
委員 (浦越 拓野)
委員 野城 一栄
委員 進藤 州弘
オブザーバー 林 華奈子
オブザーバー 保田 尚俊
協力者 岡田 良平
協力者 小野 顕司
協力者 本堂 亮
協力者 芳賀 康司
協力者 魚津 宗
協力者 土井 充
協力者 玉井 真一
協力者 佐原 圭介
協力者 千代 啓三
協力者 上野 光
協力者 竹津 英二
協力者 福山 恵夫
協力者 梶田 覚
協力者 山本 武史
協力者 米澤 豊司
協力者 小伊豆俊博
協力者 阿部 信介
協力者 南 邦明

協力者 磯谷 篤実
 協力者 須澤 浩之
 協力者 西村 直樹
 協力者 永利将太郎
 協力者 藤原 哲男
 協力者 樋口 哲哉
 協力者 小林 等
 協力者 金子 伸生
 協力者 鶴谷 建太
 協力者 石井 秀和
 協力者 長井 崇徳
 協力者 吉村 直人
 協力者 斉藤 道真
 協力者 伊藤 久雄
 協力者 兼安 英紀
 協力者 竹村 和晃
 協力者 山口 真基
 協力者 石川 大輔
 協力者 羽生田康雄
 協力者 長川 善彦

**5.1 北海道新幹線、新函館北
 斗・札幌間トンネル施工技術委
 員会幹事会**

幹事長 岸田 潔
 幹事 太田 岳洋
 幹事 小西 真治
 幹事 浦越 拓野
 幹事 野城 一栄
 幹事 進藤 州弘
 幹事 勝見 武
 幹事 菊本 統
 オブザーバー 保田 尚俊
 協力者 小野 顕司
 協力者 芳賀 康司
 協力者 魚津 宗
 協力者 土井 充
 協力者 佐原 圭介
 協力者 千代 啓三
 協力者 上野 光
 協力者 梶田 覚

協力者 山本 武史
 協力者 米澤 豊司
 協力者 小伊豆俊博
 協力者 阿部 信介
 協力者 南 邦明
 協力者 磯谷 篤実
 協力者 須澤 浩之
 協力者 西村 直樹
 協力者 永利将太郎
 協力者 藤原 哲男
 協力者 樋口 哲哉
 協力者 小林 等
 協力者 金子 伸生
 協力者 鶴谷 建太
 協力者 石井 秀和
 協力者 長井 崇徳
 協力者 吉村 直人
 協力者 斉藤 道真
 協力者 伊藤 久雄
 協力者 兼安 英紀
 協力者 竹村 和晃
 協力者 山口 真基
 協力者 石川 大輔
 協力者 羽生田康雄
 協力者 長川 善彦

**5.2 北海道新幹線、新函館北
 斗・札幌間トンネル施工技術委
 員会幹事会定例検討会**

主査 岸田 潔
 幹事 福田 大祐
 幹事 菊本 統
 幹事 保田 尚俊
 幹事 太田 岳洋
 幹事 小西 真治
 幹事 野城 一栄
 幹事 嶋本 敬介
 幹事 浦越 拓野

**5.3 北海道新幹線、機械化施工
 小委員会**

委員長 小山 幸則
 委員 杉本 光隆
 委員 中川 光弘
 委員 五十嵐敏文
 委員 藤井 義明
 委員 勝見 武
 委員 岸田 潔
 委員 岩波 基
 委員 太田 岳洋
 委員 上原 元樹
 委員 牛田 貴士
 委員 小西 真治
 委員 進藤 州弘
 委員 野口 守
 委員 野々村政一
 オブザーバー 菊本 統
 オブザーバー 上澤 真平
 協力者 岡田 良平
 協力者 小野 顕司
 協力者 本堂 亮
 協力者 芳賀 康司
 協力者 魚津 宗
 協力者 土井 充
 協力者 玉井 真一
 協力者 佐原 圭介
 協力者 千代 啓三
 協力者 上野 光
 協力者 竹津 英二
 協力者 福山 恵夫
 協力者 磯谷 篤実
 協力者 須澤 浩之
 協力者 岡田 岳彰
 協力者 西村 直樹
 協力者 金子 伸生
 協力者 吉村 直人
 協力者 山口 真基
 協力者 長川 善彦

5.4 野田追込(北)工区崩落事故特別技術委員会

委員長	小山 幸則
委員	大島 洋志
委員	朝倉 俊弘
委員	岸田 潔
委員	中川 光弘
委員	倉橋 稔幸
委員	野城 一栄
委員	川越 健
協力者	綿貫 正明
協力者	依田 淳一
協力者	小野 顕司
協力者	岡田 良平
協力者	本堂 亮
協力者	玉井 真一
協力者	佐原 圭介
協力者	竹津 英二
協力者	福山 恵夫
協力者	米澤 豊司
協力者	梶田 覚
協力者	南 邦明
協力者	小林 等
協力者	伊藤 浩
協力者	石井 秀和

6. 中央アルプストンネル施工技術委員会

委員長	朝倉 俊弘
委員	小山 幸則
委員	大島 洋志
委員	西村 和夫
委員	杉本 光隆
委員	岸田 潔
委員	小嶋 智
委員	八嶋 厚
委員	西垣 誠
委員	太田 岳洋
委員	常盤 哲也
委員	海瀬 忍
委員	(八木 弘)

委員	長谷川 淳
オブザーバー	古谷 佳久
オブザーバー	梅村 哲男
協力者	上田日出男
協力者	堀口 知巳
協力者	浅見 均
協力者	山崎 貴之
協力者	玉井 真一
協力者	佐原 圭介
協力者	奥原 祐治
協力者	黒瀬 信弘
協力者	佐藤 貴史
協力者	直江 久永
協力者	湊 敦之
協力者	吉野 弘明
協力者	福山 拓郎

6.1 中央アルプストンネル施工技術委員会シールド小委員会

委員	小山 幸則
委員	西村 和夫
委員	杉本 光隆
委員	岸田 潔
委員	津野 究
協力者	高氏 昇
協力者	伊藤 浩
協力者	千代 啓三
協力者	黒瀬 信弘
協力者	佐藤 貴史
協力者	直江 久永
協力者	吉野 弘明

6.2 中央アルプストンネル施工技術委員会ワーキング

委員長	朝倉 俊弘
委員	小山 幸則
委員	大島 洋志
委員	岸田 潔
委員	西垣 誠
オブザーバー	高見健太郎
協力者	山崎 貴之

協力者	伊藤 浩
協力者	奥原 祐治
協力者	黒瀬 信弘
協力者	佐藤 貴史
協力者	直江 久永
協力者	湊 敦之
協力者	吉野 弘明
協力者	福山 拓郎

7. 効率的点検特別委員会

委員長	西村 和夫
副委員長	砂金 伸治
委員	石田 哲也
委員	森本 智
委員	藤田 一宏
委員	大津 敏郎
委員	海瀬 忍
委員	小林 康範
委員	山田 隆昭
委員	大澤 誠司
委員	八木 弘
委員	谷口 徹也
委員◎	松岡 茂
委員○	須藤 敏明
委員○	西脇 敬一
委員○	平間 昭信
委員○	土屋 智史
委員○	望月 誠一
委員○	岡部 正
委員○	重田 佳幸
委員○	高橋 幸一
委員○	北澤 隆一
協力者	上杉 亮
協力者	中島 康介
協力者	狛 忠弘
事務局	中野 清人
事務局	山崎 哲也
事務局	小林 大助
事務局	藤本 崇人

8. 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長 西村 和夫
副委員長 砂金 伸治
委員 蔣 宇静
委員 菊本 統
委員 日下 敦
委員 上野 光
委員 嶋本 敬介
委員 藤田 一宏
委員 大津 敏郎
委員 荻野 政行
委員 海瀬 忍
委員 岩尾 哲也
委員 山田 隆昭
委員 八木 弘
委員◎ 太田 裕之
委員○ 河邊 信之
委員○ 出口 大輔
委員○ 板谷 裕次
委員○ 宮嶋 保幸
委員○ 青木 宏一
委員○ 安藤 拓
委員○ 須藤 敏明
委員○ 川島 義和
委員○ 川端 康夫
委員○ 盛重 知也
委員○ 中込 正貴
委員○ (小出 孝明)
協力者 碓本 大
協力者 上杉 亮
協力者 高橋 涼
協力者 北村 元
協力者 中島 康介
協力者 北川 真史
協力者 池端 信哉
協力者 櫻谷 慶治
協力者 狛 忠弘
協力者 水野 希典
協力者 真有 祥太

事務局 中野 清人
事務局 山崎 哲也
事務局 小林 大助
事務局 沖原 穂高

9. 改築設計施工技術特別委員会

委員長 砂金 伸治
委員 保田 尚俊
委員 林 久資
委員 小泉 悠
委員 寺戸 秀和
委員 嶋本 敬介
委員 大津 敏郎
委員 海瀬 忍
委員 (八木 弘)
委員 岩尾 哲也
委員 山田 隆昭
委員◎ 鈴木 雅行
委員○ 日向 哲朗
委員○ 伊藤 哲
委員○ 秋山 崇裕
委員○ 青木 宏一
委員○ 福田 毅
委員○ 須藤 敏明
委員○ 鈴木 健
委員○ 今村 新吾
委員○ 森田 篤
協力者 碓本 大
協力者 上杉 亮
協力者 北村 元
協力者 中島 康介
協力者 櫻谷 慶治
協力者 狛 忠弘
事務局 中野 清人
事務局 山崎 哲也
事務局 菅原 千尋
事務局 沖原 穂高

10. 矢上川地下調節池 施工技術検討会

委員長 小山 幸則
委員 砂金 伸治
委員 岩波 基
委員 菊本 統
委員 真下 英人

11. 西武鉄道新宿線(中井駅～野方駅間)連続立体交差事業技術検討委員会

委員長 小山 幸則
委員 大石 敬司
委員 花井 徹夫
委員 岡村 浩志
委員 豊川 士朗
委員 陰山 健司

12. 相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業トンネル施工検討委員会

委員長 小山 幸則
委員 大石 敬司
委員 小西 真治
委員 岩波 基
委員 菊本 統
委員 川島陽二郎
オブザーバー 田中 洋介

12.1 相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業トンネル施工検討委員会幹事会

幹事長 鈴木 知徳
幹事 鎌倉 友之
幹事 出浦 利彦
幹事 濱 新司
幹事 上田 武彦
オブザーバー 梅津 彰

4. 運営・広報事業の概要

総務委員会委員長 松崎 薫

本会の事業の運営方針や広報活動について全体調整を行うとともに、企画運営幹事会及び広報小委員会において、具体的な方策を検討した。また、国内外からの技術協力や協賛・後援依頼について検討した。

- ①令和4年度決算、事業報告及び令和5年度予算案、事業計画を検討した。
- ②令和元年度に策定したJTAビジョンを踏まえ、5つの事業の実施方策を検討した。

(1) 企画運営幹事会

幹事長 堀口 知巳

- ③JTAビジョンを踏まえて、研究助成、JTA表彰等の5つの事業の実施に関して具体策を検討した。
- ④技術者育成支援のため、アクセスしやすい教育・訓練環境の構築を目指し、「自主学习支援サイト」の実施方法・内容について検討した。

(2) 広報小委員会

委員長 吉村 正

- ⑤本会における今後の広報のあり方について検討するため、ウェブを活用して広報活動等に関するアンケートを実施し、その結果をウェブサイトにおいて公表した。
- ⑥ウェブサイト及び会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努めた。
- ⑦各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、頒布図書資料の広報活動に努めた。

5. 国際関係事業の概要

国際委員会委員長 鈴木 徹

ITA活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努めた。

- ①ITAを通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、各種作業部会(WG)に参加するなどITAの場の活用に努めた。

(1) ITA小委員会

委員長 砂金 伸治

- ②令和4年9月にハイブリッド形式で開催された第48回ITA総会・WTC2022(デンマーク・コペンハーゲン)に代表者を現地に派遣した。その結果報告は、会誌2023年2月号で報告した。
- ③2023年5月にギリシャ・アテネで開催される第49回ITA総会、及びWTC2023への対応方針について検討した。

(2) 海外情報小委員会

委員長 福井 勝則

- ④トンネル技術に関する海外の雑誌のニュースおよび記事を抽出、翻訳して会誌に掲載した。
- ⑤わが国の技術を積極的に世界に広報するため、「Tunnelling Activities in Japan 2022」を刊行した。

頒布図書一覧

令和4年度は、これまでの研究成果を主とした下記図書資料 450 部 を頒布した。

刊行年度	図書番号	図 書 名	頒布部数	残部数
1985	6008	トンネル工事の安全－NATM編－	4	51
1990	90001	大深度地下利用技術(邦文)		8
	90002	大深度地下利用技術(英文)		7
1992	92006	トンネル工事の安全－斜坑・立坑編－	1	31
1998	98003	トンネル工事の安全－山岳トンネル機械掘削編－	4	4
1999	99001	トンネル工事の安全－山岳発破作業編－	4	5
2000	200010	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－テキスト－		25
	200011	大深度地下利用技術調査小委員会報告書－モデル検討－		51
2001	200104	電力用立坑の性能照査型設計手引	2	13
2002	200105	覆工コンクリート施工の手引き	6	63
	200207	SUS9 国際会議		20
2003	200303	性能照査型ガイドライン講習会		27
2005	200508	トンネル技術白書－山岳トンネル施工技術の現況と変遷－		98
2015	201504	都市部近接施工ガイドライン	50	199
	201505	設立40周年記念事業「シールド技術変遷史」	2	128
2018	201801	トンネル年報 2018		51
	201805	山岳トンネル工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	8	207
	201806	シールド工事に係るセーフティ・アセスメントに関する指針・同解説	14	269
2019	201901	トンネル年報 2019		125
2020	202001	トンネル年報 2020		220
	202005	トンネル管理技術者のための維持管理に関するQ&A	140	238
2021	202101	トンネル年報 2021	4	247
2022	202201	トンネル年報 2022	28	17
	202202	山岳トンネル工法における防水工指針(改訂版)	183	317
合 計 24 件			450	2,421

6. 催物事業の概要

事業委員会委員長 入江 健二

本会の事業活動に対して、会員をはじめ広く一般の理解と関心を高め、その参加・協力を得るとともに、当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図るために実施した。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、リモート開催を行うなど、実施に努めた。

(1) 各種催物

① 現場研修会

毎年随時実施している国内の鉄道、道路、電力、地下鉄、下水道等各種トンネル工事現場での研修会(見学会)については、新型コロナウイルス感染症の状況により令和2年度から休止していたが、令和4年9月に再開し、3回開催した。

② 施工体験発表会

第90回施工体験発表会は、山岳トンネルについて、「新技術・創意工夫により課題を解決した山岳トンネル新設・改修工事－生産性・安全性向上、働き方改革－」を、また第91回施工体験発表会は、都市トンネルについて、「市街地におけるトンネル、地下構造物の新設及び改造工事－環境配慮、施工改善、近接物対応事例－」をそれぞれ課題として、10月20日(木)、21日(金)に、会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で開催した。また、優秀発表者の選考、ベストオーディエンス賞についても引き続き実施した。

③ トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験5～10年程度の中堅技術者を対象としたトンネル技術ステップアップ研修会(山岳部門、シールド部門)は、対面演習が望まれることから、昨年度に引き続き今年度も開催を見送った。

④ 講習会・講演会

「シールド工事の施工の安全に関する講演会」を6月にリモートで開催するとともに、後日に約3週間、オンデマンドでも配信した。

山岳工法小委員会地山WGの活動成果を用いた「よくわかる「切羽観察の基礎知識」講習会」を、会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で11月17日に開催した。

「山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)」を12月7日、「山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)」を1月27日に、それぞれリモート形式で開催した。

(2) 50周年記念事業

令和7年度(2025年度)に本会は設立50周年を迎えることから、事業委員会に設置した50周年記念事業準備会において、記念事業の内容についての検討を実施した。

令和4年度各種催物開催実績

催物名	開催日	参加者数	開催場所	CPD 取得単位
(現場研修会)				
横浜市内道路トンネル現場研修会 (釜利谷庄戸トンネル、桂町トンネル)	2022.9.7	24	神奈川	3.9
赤羽台下水道工事現場研修会 (縦二連特殊泥水式シールド工法)	2022.10.19	12	東京	2.0
中央自動車道新小仏トンネル現場研修会	2023.3.1	25	神奈川・東京	2.9
(施工体験発表会)				
第90回(山岳)「新技術・創意工夫により課題を解決した山岳トンネル新設・改修工事－生産性・安全性向上、働き方改革－」	2022.10.20	89	東京 ハイブリッド	5.5
第91回(都市)「市街地におけるトンネル、地下構造物の新設及び改造工事－環境配慮、施工改善、近接物対応事例－」	2022.10.21	56	東京 ハイブリッド	3.9
(講習会・講演会)				
シールド工事の施工の安全に関する講演会	2022.6.21	355	リモート	—
	2022.6.28 ～7.15	159	オンデマンド	—
よくわかる「切羽観察の基礎知識」講習会	2022.11.17	23	東京 (会場参加)	4.5
		97	リモート	2.4
山岳トンネル維持管理業務講習会(基礎編)	2022.12.7	35	リモート	6.2
山岳トンネル維持管理業務講習会(実践編)	2023.1.27	42	リモート	5.9

注;ハイブリッドとは、会場とリモート参加の併用形式。

令和4年度施工体験発表会 優秀発表者(審査結果)

第90回(山岳)ならびに第91回(都市)施工体験発表会に係る発表者の表彰について、事業委員会において審査した結果、下記のとおり決定した。なお、最優秀賞の論文を会誌(令和5年6月号)に掲載する。

第90回(山岳)施工体験発表会 「新技術・創意工夫により課題を解決した山岳トンネル新設・改修工事 ー生産性・安全性向上、働き方改革ー」

開催日:令和4年10月20日(木) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催) 発表者:13名

<最優秀賞>

受賞者 福井 隆介 大成建設(株)

発表論文 大土被り泥岩地山における長尺先進ボーリングによる設計支保パターンの合理化
ー 朝日温海道路11号トンネル工事 ー

<優秀賞>

受賞者 中西 大介 (株)安藤・間

発表論文 押し出し性地山を伴う長大水路トンネルの施工および生産性向上の取り組み
ー 水海川導水トンネル2期工事 ー

<優秀賞>

受賞者 杉谷 悠行 戸田建設(株)

発表論文 温室効果ガス排出を抑制したトンネル施工の工夫
ー 新名神高速道路 宇治田原トンネル東作業所 ー

第91回(都市)施工体験発表会 「市街地におけるトンネル・地下構造物の新設および改修工事 ー環境配慮、施工改善、近接物対応事例ー」

開催日:令和4年10月21日(金) 開催場所:機械振興会館(リモート併用開催) 発表者:9名

<最優秀賞>

受賞者 稲見 徹 東京都下水道局

発表論文 市街地における泥水式シールド工法による急曲線施工とその対策
ー 送泥管工事(落合水再生センター～みやぎ水再生センター間) ー

<優秀賞>

受賞者 榎谷 祐輝 東京地下鉄(株)

発表論文 輸送力増強を目的とした営業線地下鉄トンネルの改良における下床版築造工事
ー 東京メトロ 東西線飯田橋・九段下間折返し設備設置改良土木工事 ー

<優秀賞>

受賞者 白石 拡大 戸田建設(株)

発表論文 流体輸送方式を採用した泥土圧シールド工法による2路線同時掘進の計画と施工実績
ー 半田山線シールドトンネル築造工事 ー

7. 調査研究事業の概要

調査研究事業では、自主研究と受託（請負等）研究を実施した。新型コロナウイルス感染症の状況により、昨年度に引き続き制約のある中での委員会活動となったが、自主研究では、技術委員会のもと、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員のニーズに応えることに力点を置き、リモート併用会議を活用するなど調査研究の実施に努めた。また、受託（請負等）研究では、6機関から8件の技術調査検討業務を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置・検討して成果を取りまとめ、委託者（発注者）の要望に応えた（受託業務一覧表：26頁参照）。

委員会毎の主な活動の内容は、以下のとおりである。

1) 技術委員会

委員長 西村 和夫

今日的な課題や会員のニーズを把握するための情報収集に努め、得られた結果からテーマを選定し調査研究を実施した。各小委員会の活動概要は、以下のとおりである。

(1) 共通技術小委員会

委員長 都築 保勇

①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、掲載項目等について検討するとともに、関連会社への掲載依頼方針を検討した。

(2) 山岳工法小委員会

委員長 佐原 圭介

②地山の変状対策に関連する技術として、変状を予測し得る新技術について情報交換を実施した。

③切羽観察の実務的なポイントを取りまとめた「切羽観察担当者のための基礎知識Q&A」に関する講習会を企画し、令和4年11月にハイブリッド形式で開催した。

④「山岳トンネルにおける防水工指針（改訂版）」を令和4年7月に刊行した。

(3) 都市トンネル小委員会

委員長 長尾 和明

⑤「シールド工事における新技術」及び「シールド工事のトラブル事例」を取り上げ、それぞれWGを設置して調査研究を実施することとし、その準備を実施した。

(4) 安全環境小委員会

委員長 中野 清人

⑥安全対策として「肌落ち」を、環境保全として「重金属」を取り上げ、それぞれWGを設置して調査研究を実施することとし、その準備を実施した。

(5) 保守管理小委員会

委員長 齊藤 誠

- ⑦前年度に引き続き、トンネル維持管理業務講習会の基礎編ならびに実践編について、これまでのアンケート結果等を踏まえて企画し、昨年度と同様にリモート形式により、基礎編を令和4年12月7日に、実践編を令和5年1月27日に開催した。
- ⑧前年度に引き続き、トンネル点検に関する新技術について、情報交換を行った。また、情報交換結果を会員に広報するための方策を検討した。

2) 受託研究特別委員会（特別委員会）

6機関から8件の技術課題を受託（請負等）し、学識経験者からなる特別委員会等を設置し、委託者（発注者）の要望に応えるよう検討・実施した。

(1) 北海道新幹線、新函館北斗・札幌間トンネル施工技術委員会 委員長 三上 隆

前年度に引き続き（独）鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局から「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究9」業務、及び「北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3」業務を受け実施した。

(2) 中央アルプストンネル施工技術委員会

委員長 朝倉 俊弘

（独）鉄道・運輸機構関東甲信工事局から「トンネルの設計・施工に関する技術的検討3」業務を受け実施した。

(3) 効率的点検特別委員会

委員長 西村 和夫

前年度に引き続き（株）高速道路総合技術研究所から「覆工コンクリートの効率的な点検に関する基礎資料作成」業務（令和3年度業務、令和4年度業務）を受け実施した。

(4) 盤ぶくれ対策特別委員会

委員長 西村 和夫

前年度に引き続き（株）高速道路総合技術研究所から「盤ぶくれ対策工法に関する技術資料作成」業務（令和3年度業務、令和4年度業務）を受け実施した。

(5) 改築設計施工技術特別委員会

委員長 砂金 伸治

前年度に引き続き（株）高速道路総合技術研究所から「トンネル改築の設計施工技術に関する研究」業務（令和3年度業務、令和4年度業務）を受け実施した。

(6) 矢上川地下調節池 施工技術検討会

委員長 小山 幸則

神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センターから「令和4年度河川改修工事 矢上川地下調整池施工技術検討会運営及び調整業務委託」を受け実施した。

(7) 西武鉄道新宿線（中井駅～野方駅間）連続立体交差事業シールドトンネル技術検討委員会

委員長 小山 幸則

西武鉄道（株）から「新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に伴うシールド工事技術検討委員会運営業務」を受け実施した。

(8) 相模鉄道本線（鶴ヶ島駅付近）連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会

委員長 小山 幸則

相模鉄道（株）から「相模鉄道本線（鶴ヶ島駅付近）連続立体交差事業に伴うトンネル施工検討委員会運営業務」を受け実施した。

令和4年度受託業務契約一覧

(金額単位:円、税込)

№	委託者	委託件名	金額	工期	担当委員会 (略称)	委員長 (敬称略)	備考
1	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究9	36,003,000	R1.12.4 ～ R4.4.30	特別 北海道新幹線	三上 隆	複数年契約
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3	42,163,000	R3.8.17 ～ R6.3.15	〃	三上 隆	複数年契約 (部分払)
3	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	6,457,000	R4.4.1 ～ R7.6.30	特別 中央アルプス	朝倉 俊弘	複数年契約 (部分払)
4	(株)高速道路総合技術 研究所	令和3年度覆工コンクリートの効率的な点検に 関する基礎資料作成	29,359,000	R3.10.28 ～ R4.8.23	特別 効率的点検	西村 和夫	複数年契約
5	(株)高速道路総合技術 研究所	令和4年度覆工コンクリートの効率的な点 検に関する基礎資料作成	(契約済)	R4.12.24 ～ R5.10.19	〃	西村 和夫	複数年契約 (完成払)
6	(株)高速道路総合技術 研究所	令和3年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資 料作成	38,621,000	R3.8.27 ～ R4.6.28	特別 盤ぶくれ	西村 和夫	複数年契約
7	(株)高速道路総合技術 研究所	令和4年度盤ぶくれ対策工法に関する技術資 料作成	(契約済)	R4.8.9 ～ R5.7.4	〃	西村 和夫	複数年契約 (完成払)
8	(株)高速道路総合技術 研究所	令和3年度トンネル改築の設計施工技術に 関する研究	27,698,000	R3.6.9 ～ R4.5.4	特別 改築	砂金 伸治	複数年契約
9	(株)高速道路総合技術 研究所	令和4年度トンネル改築の設計施工技術に 関する研究	(契約済)	R4.6.10 ～ R5.5.5	〃	砂金 伸治	複数年契約 (完成払)
10	神奈川県横浜川崎治 水事務所川崎治水セ ンター	令和4年度河川改修工事 矢上川地下調節池 施工技術検討会運営及び調整業務委託	704,000	R4.5.9 ～ R4.9.30	特別 矢上川	小山 幸則	
11	神奈川県横浜川崎治 水事務所川崎治水セ ンター	令和4年度河川改修工事 矢上川地下調節池 施工技術検討会運営及び調整業務委託	517,000	R4.11.28 ～ R5.3.31	〃	小山 幸則	
12	西武鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に 伴うシールド工事技術検討委員会営業務	220,000	18.7.12 ～ R5.3.30	特別 西武新宿線	小山 幸則	複数年契約 (R4年度分)
13	相模鉄道(株)	新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業に 伴うシールド工事技術検討委員会営業務	1,595,000	R4.11.24 ～ R9.3.31	特別 相模鉄道	小山 幸則	複数年契約 (R4年度分)
令和4年度会計合計			183,337,000	(8つの特別委員会)			
次年度以降会計契約額			金額	工期			備考
2	(独)鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局	北海道新幹線、トンネル設計施工の研究R3	26,455,000	R3.8.17 ～ R6.3.15			継続 R5年度分
3	(独)鉄道・運輸機構 関東甲信工事局	トンネルの設計・施工に関する技術検討3	28,127,000	R4.4.1 ～ R7.6.30			継続 R5～R7年度分
5	(株)高速道路総合技術 研究所	令和4年度覆工コンクリートの効率的な点 検に関する基礎資料作成	21,967,000	R4.12.24 ～ R5.10.19			継続 R4～R5年度分
7	(株)高速道路総合技術 研究所	令和4年度盤ぶくれ対策工法に関する技術 資料作成	47,025,000	R4.8.9 ～ R5.7.4			継続 R4～R5年度分
9	(株)高速道路総合技術 研究所	令和4年度トンネル改築の設計施工技術に 関する研究	24,200,000	R4.6.10 ～ R5.5.5			継続 R4～R5年度分
13	相模鉄道(株)	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事 業に伴うトンネル土工検討委員会運営業務	3,758,000	R4.11.24 ～ R9.3.31			継続 R5～R8年度分
合 計			151,532,000				

8. 表彰(功績賞、功労賞)の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和 3 年度から新たに「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員に「功績賞」を、また本会の発展に特別の功労のあった会員に「功労賞」を授与している。

令和 4 年 11 月 10 日から令和 5 年 1 月 31 日までの期間、令和 5 年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞 1 件、功労賞 1 件の推薦があった。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、功績賞 1 件(団体)、功労賞 1 件(個人)の受賞者を決定した。

受賞者は、本会定時総会(令和 5 年 6 月 8 日(木)開催)において表彰する。

令和5年度表彰者

表彰種別	表彰者(敬称略)	表彰業績
功績賞 (団体)	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 前田建設工業株式会社 (連 名)	山岳トンネルの覆工コンクリート品質向上を目的とした背面平滑型トンネルライニング工法(FILM)の開発と新幹線トンネルへの本格展開
功労賞 (個人)	田中 勝雄 一般社団法人 日本トンネル技術協会 事務局 職員	永年にわたって一般社団法人日本トンネル技術協会に勤務し、協会業務を通じてわが国におけるトンネル技術の発展に貢献

9. 研究助成(研究助成部門、研究奨励部門)の選考概要

本会は、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和3年度から「研究助成制度」を設け、トンネル・地下空間の建設及び維持管理に資する技術開発又は研究に対して、研究助成部門と研究奨励部門(40歳未満の若手研究者対象)の2部門で研究助成を実施している。

研究助成部門の助成額は1件につき単年度100万円以下、研究奨励部門の助成額は1件につき単年度20万円以下で、助成対象者は本会の個人会員であって、大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者としている。

令和4年9月5日から同年11月30日までの期間、令和5年度に助成する研究・技術開発を募集したところ、新規・継続合わせて5件の応募があった。申請内容に関して、本会に設けた研究助成審査委員会(松崎薫委員長)で、①研究の新規性・独自性、②研究計画の妥当性、③トンネル等事業への貢献度、④研究の進捗状況(継続案件のみ)の3(又は4)項目の評価を行い、今般、5件全ての採択を決定した。

なお、研究計画が複数年にわたるものについては、毎年度、申請受付手続きを行い、再度審査するものとしている。

令和5年度助成研究

部門	助成研究テーマ	助成額	研究者
研究助成部門 3件	既設トンネルのつらら対策業務の低減に資する研究(継続)	100万円	林 久資 (西日本工業大学)
	膨潤性地山に起因するトンネルの変状メカニズムの解明とその対策の構築(継続)	100万円	崔 瑛 (横浜国立大学)
	掘削時の地山補強を目的とした補助工法の選定手法に関する研究(新規)	100万円	砂金 伸治 (東京都立大学)
研究奨励部門 2件	地山物性の空間的な不均質性を考慮した山岳トンネル切羽の安定性評価(継続)	20万円	岡崎 泰幸 (松江工業高等専門学校)
	常時微動計測を用いた山岳トンネルの振動特性の把握に関する研究(継続)	20万円	河田 皓介 (東京都立大学)